



THE Y'S MEN'S CLUB OF SAPPORO
CHARTERED ON NOVEMBER 21, 1955

2019年1月

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(YMCA561)5217

札幌クラブ

The Service Club of YMCA
The International Association of Y's Men's Clubs

IBC/DBC 国際兄弟クラブ/国内兄弟クラブ

— 主 題 —

国際会長 「Yes, We can change」
アジア会長 「Action」「アクション」
東日本区理事 「為せば 成る」
北海道部部长 「その先のワイズへ」
札幌クラブ会長 「楽しいワイズ」

Moon Sang Bong (韓国)
田中 博之 (東日本)
宮内 友弥 (東京武蔵野多摩)
二本松能敬 (北見)
柴田 伸俊 (札幌)

札幌クラブ役員

会長 柴田 伸俊
副会長 伏木 康
書記 小野 健
会計 秋葉 聡志
直前会長 柴田 伸俊

今月の聖句

「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしの「内なる人」は日々新たにされていきます。」
コリントの信徒への手紙二 4章 16節 秋葉聡志選

「初めに言(ことば)があった」

秋葉 聡志



先日、YMCA幼稚園のクリスマス礼拝がありました。その中で園児が演じる降誕劇は「招きのことば」で始まります。「招きのことば」は、新約聖書の「ヨハネによる福音書」冒頭の1章1節から18節までを、区切りの良いところで分担して、年長ひまわり組と年中すみれ組の園児がペアになって、子どもたち2人で声を合わせて暗唱するのです。

「初めに言があった。」で始まるこの箇所は、さらに、「言は神と共にあった。言は神であった。」と続きます。種を明かせば、この「言」は神でありイエス・キリストのことなのですが、また、さらに続けて、万物が言によって成ったこと、言の内に命があり、命は人間を照らす光であることが語られます。この「光」もイエス・キリストのことであり、まことの光で、すべての人を照らす光であること、そして、イエスが私たち人間の姿になって、この世に宿られたこと、最後にこの方が神を示されたことと締めくくります。ヨハネによる福音書は、イエスこそ神の言葉が人の姿をとって人の歴史に表れた人物であり、神を知るには、この独り子なる神イエスを知ること以外にはないことを宣



言しています。幼稚園のクリスマスでこの「招きのことば」を聞くと、感動して心が震えます。信仰のある人にもない人にも、ぜひ味わってほしい言葉です。

子どもたちは、聖書そのままの言葉を丸暗記しますから、当然意味は分からないと思いますが、一生懸命覚えた言葉がいつまでも心に残り続けて欲しいと願っています。神様の御心が支配する神の国は、からし種のようなものだと聖書は語ります。まかれた小さな種が、やがて芽を出し、枝を張り、鳥が巣をつくるような大きな木に育つと語ります。また、良い地にまかれた種は、育って実を結び、三十倍、六十倍、百倍にもなることも語ります。ことばどもたちの心にまかれたみ言葉の種が、いつか芽を吹き、大きな木に育って、多くの実を結ぶことを信じています。

2018年12月例会 在籍会員 8名 例会出席 5名 ネット 0名 メーキングアップ 0名
出席報告 ゲスト 2名 ビジター 0名 計 6名 出席率 63%

札幌ワイズメンズクラブ 2019年北海道部合同新年会

日時： 2019年1月14日(月・祝) 17:30~19:30

受付開始：17:15 開会：17:30

場所： 鶴雅ビュッフェホテル札幌

札幌市中央区北2条西4丁目1番

赤レンガテラス2F ☎050-5570-4199

会費 7,000円

プログラム

司会 伏木 康

- ① 開会点鐘 札幌クラブ会長 柴田 伸俊
- ② ワイズの信条 全員
- ③ 聖句 秋葉 聡志

④ 「セルフ・イメージを変える」

北翔大学スポーツ学科教授

よしてる
佐藤 至英様



記念撮影

祝宴

- ⑤ 食前の挨拶 北海道部部长 二本松 能敬
- ⑥ 亥年の抱負 次期東日本区理事 山田 敏明
- ⑦ 乾杯 次期東日本区理事 山田 敏明

祝宴
報告
アピール
etc.,etc.



- ⑧ 会食終了
- ⑨ 閉会挨拶 次期北海道部部长 宮崎 善昭

何故この聖句を 札幌クラブ会計秋葉 聡志

新しい1年がはじまり、また一つ歳をとってしまいます。中高年にとっては、肉体の衰えを感じるのは寂しい限りですが、どんな自分になっていくのか、未知の世界に足を踏み込む楽しみもあります。生きるということは、毎日まだ知らない新しい自分に出会うことでもあると思います。

札幌ワイズメンズクラブ12月例会

日時： 2018年12月18日(火) 18:30~20:30

場所： 北海道YMCA 101号室

出席者：秋葉、佐藤、柴田、伏木、中田靖、宮崎

1. 札幌YMCAスタッフの高橋芽久さんによる11月23~25日に東山荘で開かれた第「20回日本YMCA」の詳細な報告をお聞きしました。(p.参照)「多くの人々との『つながり』が出来、YMCAのために働こうという決意を新たにしました」と結んだのが印象的でした。

2 回目参加の伏木会員は“YMCA ONE MILLION VOICES”や“テゼの折り”など更に深掘りした報告で盛り上げてくれました。

2. 12月YMCAバザーのメニュー、担当

決定と打ち合わせ

3. 1月合同新年会の名称と出席者確認



札幌ワイズメンズクラブ12月例会
前列左から：中田、柴田、高橋
後列左から、佐藤、伏木、秋葉、木田

札幌ワイズメンズクラブ12月事務会

日時： 2018年12月25日(火) 17:00~17:45

場所： 北海道YMCA 総主事室

出席者：秋葉、佐藤、柴田、伏木、中田靖、宮崎

- 1. 1月合同例会のプログラム、時間配分、札幌クラブの出席者
各クラブは28日まで集計
- 2. 2月24日(日)室内サッカー大会
- 3. 2月例会日の変更 2月19日(火)から21日(木)に変更
- 4. 2月事務会 2月26日(火)
- 5. 3月3日(日)Y'sベル杯・・・ワイズコーナー設置(アイスコーヒ)
- 6. 3月17日(日)YMCA卒業式

第73回日本YMCA大会報告

伏木康、高橋芽久

札幌ワイズメンズクラブ 副会長 伏木 康
北海道からは、秋葉総主事、高橋芽久さん、私の
3名が参加しました。

私は、4年前の第18回全国大会に続いて2回目の
参加でした。今回の全国大会で私が新しくみつけた
(ENCOUNTER) ことを3つ挙げます。

1. 「YMCA ONE MILLION VOICES」

このタイトルの動画(5分程度)を見たのですが、
YMCAが海外にも繋がっていること、ユースエンパ
ワーメントの理解が深まり、札幌ワイズの例会でも紹
介しました。

2. 「テゼの歌を用いた祈り」

前回の参加時、黙想館から見た富士山が美しか
ったので、黙想館プログラムは楽しみでした。今
回も大会中は好天に恵まれ、素晴らしい朝のプログ
ラムでした。単純素朴な繰り返しの歌をユースの
方が奏でるギターに合わせて歌った後、沈黙する
という礼拝は初めての経験で、本場フランスの礼拝に
も行きたくなりました。

3. 「薪のような人、くまさん」

第18回大会ではキャンプファイヤーがなかつ
たので、今回最も楽しみにしていたプログラムで
した。知っているゲームもありましたが、最初に行
った参加者と握手するひとと最後の語りが印象的
で、もっと話を深掘りして聞きたいと思いました。

今までの、ワイズ北海道部のユース支援は、ユ
ースリーダーを全国の研修に送るものが主体で
したが、くまさんをチミケップのリーダートレー
ニングに招聘して、北海道の多くのユースと繋が
ってもらおう(CONNECT)支援も一つのアイデアだと思
いました。



札幌ランチスタッフ 高橋 芽久
2023年11月23日(金)~25日の3日間で、
「第20回日本YMCA大会」が日本YMCA同
盟国際青少年センター東山荘において行われまし
た。「つどえ東山荘に!~すべての“y”がつなが
る日」をテーマに全国のYMCAから参加者約250
名が集まりました。今回ワイズメンズクラブ北海
道部からの支援を頂き、参加させて頂きました。

参加者は28のグループに分けられ、YMCAの
スタッフ、ボランティア、ワズメンズクラブ etc と様
々な方々とつながれるように設定されていました。私
のグループもそれぞれ背景が違う人たちが集まり、
1日目から3日目まで様々なグループセッションを
行いました。住んでいる地域も違えば、職業も年齢
も違いました。ですが共通して言えたのは、YMCA
にかかわって生きているということでした。

私のグループではグループセッションの中で、
それぞれが直面している課題を共有する時間があり、
「ボランティアの仲間を増やしたい」、「ユースに協力
したいが、何を求めているのか分からない」など、
沢山の課題が出ました。

初対面の人たちがお互いのためにアイデアを出
し合いました。私はその様子を見て、互いの意見を
共有し合えるのはYMCAのよいところだと感じま
した。グルメザウエルクラウツープの時間以外にも
1日目、2日目の夜に懇親会があり、沢山のひとか
かわることが出来ました。

3日目にはワールドカフェを行いました。ワー
ルドカフェでは沢山の参加者と様々なテーマにつ
いて対話することが出来ました。特に印象に残って
いるテーマは「リーダーとスタッフ」というテーマ
でした。私は北海道YMCAでボランティアリーダー
を担当しています。実際に活動しているボラン
ティアリーダーに、どういう気持ちで活動して
いるのか聞くことが出来ました。そして北海道で活
動しているユースのボランティアリーダーも同
じような思いをもしかしたら持っているかもしれ
ないと考えることが出来ました。

北海道YMCAでは活動してくれているユ
ースボランティアリーダーが年々減ってきていま
す。現在活動しているボランティアリーダーたち
は学校やアルバイトで忙しい中YMCAに来ていま
す。私はその背景をしっかりと受け止め、みんな
がよくなっていけるように関わっていきたく
と強く思いました。私は今まで他の地域にある
MYCAの方と関わる機会がありませんでした。今
回の日本YMCA大会に参加したことでたくさん
の方と「つながり」を作ることが出来ました。こ
の強みを活かして、今後もYMCAのために働
いていきたいです。

Y M C A ニュース

担当主事 佐藤 雅一

① ピンクシャツデー

「いじめのない社会をめざします。」

YMCAは「ピンクシャツデー」に取り組んでいます。社会全体がいじめの被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者」にならないことが、いじめられている子どもを救うことになる…と私たちは考えます。公平で平和な世界の実現をめざすために、私たちはその第一歩を踏みだします。それをきっかけに、いじめの問題について一緒に考えませんか？



「ピンクシャツデー」とは…

2007年、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動です。ある日、ピンクの服を着て登校した少年が「女みたいだ…」といじめられました。それを見た先輩2人が50枚のピンクシャツを友人に配り、翌日登校をします。学校では呼びかけに賛同した多くの生徒シャツを着て登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。このエピソードがSNS等で世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに反対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が2月の第4水曜日でした。それ以降、2月の第4水曜日に私たちもいじめを考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。

今年は、2月27日がピンクシャツデーです。現在YMCAとワイズメンズクラブ協働でTシャツ作りの準備が進められています。

③ 冬期特別プログラム

12月26日～1月18日まで冬期特別プログラムが行われます。全道では1,500名近い子供達がスキーを始め、水泳・体操・ウィンタースクールなど様々なプログラムに参加します。

④職員募集中

現在、保育指導職、体育指導職の職員募集中です。良い方がいれば是非ご紹介下さい。

② 全国YMCA会議

1月は全国YMCAの会議が多数行われ、北海道YMCAからもスタッフが参加します。

・東日本地区YMCAスタッフ研修会

1/23-24 福島県南相馬市で行われ、チャイルドケアセンターの先本 充志さんと秋葉総主事が参加します。

・チャイルドケア担当者会 教育・保育事業部会

1/25-26 東京の在日本韓国YMCAで行われ、北見 brunchの齋藤志ディレクターが参加します。

・国際事業担当者会

1/28-29 東京の在日本韓国YMCAで行われ佐藤雅一ディレクターが参加します。

会員消息 小野 健

遅くなってしまいましたが、明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年末年始は相変わらず仕事を立て込んでしまっており、当方からの連絡返信が遅くなってしまい申し訳ありませんでした。

ご案内頂いております、1/14(月)の合同例会ですが、大変残念なのですが、その日は札幌にはいない予定となっております(日本にはいるのですが)、欠席とさせていただきます。申し訳ありません…

なお、私は今月末から3月末までの約2か月間にブルキナファソ、帰ってからすぐになりますが4月上旬から3週間ほどマダガスカルへの出張を予定しています(私自身は10年ぶりの「帰省」となります)。

その後は札幌でのアフリカ人JICA研修員の受け入れ事業のため、7月末までは札幌/日本にはいる予定です。

合同例会には出席できませんので、Y'sの皆様にはくれぐれもよろしくお伝えください。

ワイズリー 小野 健

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のためにYMCAに尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかる。
4. 義務を果たしてこそ、権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席第一、
社会には奉仕第一を旨としよう。